

しもかわ地域共育ストーリーが完成しました!



2020年度 共育ビジョン策定会議のあゆみ

2019年11月から地域・家庭・学校で子どもを育て地域共育ビジョンについて話し合いを重ねてきました。

今年度は、全7回の会議で、最終的にビジョンとストーリーを完成し、2年間の取り組みを終了しました。

2020年4月、地域共育ビジョンを策定、その後ポスターを作成し、ぬりえコンテストを実施。町民のみなさんに広くビジョンを知っていただく機会となりました。ビジョンを達成していくためのアクションについても検討し、幼・小・中・高の段階で、どんな子どもたちの姿があったらよいかをまとめた「しもかわ地域共育ストーリー」が作成。ビジョンがゴールではなく、実現できているか定期的にチェックし、地域共育ビジョン実現に向けて活動していきます。

今後は、地域学校協働本部を立ち上げ、コミュニティスクールと連携を図り、地域と学校とが連携して、地域の子どもたちを育てる仕組みづくりを進めていきます。

山本 大三
こどものもり 父母の会前会長

このビジョンを作ったことで、こどもが下川に戻ってきたいなあという思いになってくれたらいいなと思っています。



藤弘 のぞみ
下川中学校 校長

下川は年配者がとっても元気、その人たちの力を学校に呼び込み、子どもたちと一緒に交流していけたら嬉しい。地域の力を子どもたちに引き継いでいけることが楽しみです。



田中 由紀子
りくらしネット

私はそうではなくこう思うよ、ここは考え直さなきゃということも伝え合いみんなでつくってきた委員会だったと思う。なにかあったらこの人に相談させてもらおう、みんなで話をしてみようという関係を作れたことが大事でした。



多田 はるひ
森のようちえん カカラ

ビジョン策定した時は実現できるか不安だったけど、町内でいろんな人が活動をしているのを知り、つながりあえたら、きっと実現できるのではないかなとわくわくしています。



堀内 隆功
下川小学校 校長

子どもだけでなく、大人も生涯学習を続け、地域づくりをしていかなければと思う。地域の多様性の中で、下川の良さを共有し、地域の関係性を育んでいきたいと思っています。



立花 祐美子
下川町産業活性化支援機構

子どもを育てる身として、真剣に大人が子どもたちのために話し合える地域で、子育てをできていることが宝だな、嬉しいきもちでいっぱいです。



鎌本 光司
下川商業高校 教頭

いろんな方々の意見を聞けるのは貴重でした。委員間のつながりが最終的に子どもたちを成長させる、見守ってあげることにつながると会議を重ねるたびに強く感じるようになりました。



麻生 翼 委員長
NPO法人 森の生活

子どもたちのために、様々な立場の大人たちが対話できた貴重な機会でした。私たちの住む町が「子どもが誰ひとり取り残されない」という目標を掲げた町であることを忘れずに、力を出し合っていきましょう。



委員の声



しもかわ地域共育ストーリー

(地域共育ビジョンの要点を年代ごとにまとめたストーリー)

<豊かな感性とたくましい体を育む幼児時代>

下川の幼児たちは、季節を通じて、森では様々な生き物に触れ、農家さんのもては食を育む体験をし、様々な運動の機会にも恵まれ、豊かな感性とたくましい体を育てています。家庭、家の周り、下川の雄大な自然環境それぞれの中で、大人たちに見守られながら、健やかに成長していくための心と体の土台をつくっています。



<好きなことに出会い、多くの体験を重ねる小学校時代>

下川の小学生たちは、自分の好きなことに出会う機会に恵まれ、興味をもったことを大人が後押ししてくれます。地域を超えた出会い、世代を超えた交流、そして未知の体験…一生の記憶に残る、かけがえのない体験をたくさん重ね、自分の好きなことを見つけ、感じ取った思いを言葉にして相手に伝えることができます。そして、興味をもった活動は継続して取り組めるように、様々な年代が混ざり合いながら、大人たちがその活動を支えてくれます。持って生まれたひとりひとりの個性が当たり前認められ、ありのままの自分を存分に発揮しています。また、活動を支える健康的な生活習慣が身に付いています。

<自ら考え、他者と語り未来にむけて動き出す中学校時代>

下川の中学生たちは、社会の一員として自律して歩み始められるよう、自主性が尊重されています。様々な大人たちとの出会いを通じて、いろいろな人生があること、そして、自分自身の持っている可能性に気づくことができます。自分の考えを相手に伝えられることに加え、他者の考えを引き出し、受け入れることができます。下川の歩んできたこれまでの歴史を知り、未来について考えることができます。そして、友達のこと、将来のこと、様々な悩みについて相談できる、親以外の信頼できる地域の先輩たち(高校生、大学生、大人)がいます。また、部活動に入る生徒や地域のクラブに所属している生徒が様々おり、大人からも小学生からも頼られる存在となっています。

<地域の大人と共に動き回られ、自信と誇りがもてる高校時代>

下川の高校生たちは、自らの興味や課題意識にもとづき、意志を持って行動しており、下川になくてはならない存在として大きな役割を担っています。高校生と大人の混成チームによる複数のプロジェクトが、日本や世界で活躍する各分野の第一人者の力も得ながら進められています。「下川で高校生活を送れたから、人生の糧になるたくさんの貴重な経験を積むことができました。」と誇りと自信をもって、自らが納得する進路決定ができます。

<誰ひとり取り残されない、自分らしく学び育つ子どもたち>

特別な支援が必要な子どもたちも、自分のできること、得意なことを伸ばし、活かすことができるよう、成長に応じて切れ目のない支援が用意されています。また、学校に行きにくい子ども、オンライン学習ツールなどを活用しながら自分なりのペースで学習を進めることができます。

<子どもたちと共に育ち、責任をもって行動し続ける大人たち>

このように子どもたちを育む地域をつくるために、大人は未来世代によりよい地域社会を残すための決断をし、財源面でも、子どもたちの活動を支える予算を確保していきます。そして、地域・家庭・学校の取り組みや子どもの成長した姿を共有し、子どもたちのために活発な活動を続けていきます。

※…しもかわ地域共育ストーリーは様々な方に共通のイメージを持っていただくことを目的として策定いたしました。内容は時代の流れや実践してみた結果、様々な主体を交えた振り返り作業によって随時更新していく予定です。

■お問い合わせ 教育委員会 ☎4-2511内線516 ☆4-251111



- 子どもたちに関わる活動団体の取組発表を数回に分けて実施。ジャンプ少年団、野球少年団、こども園の農業体験、しもかわっこ、りくらしネット、森のようちえんカカラなど、8団体から発表いただきました。子どもたちの参加状況や様子など、知っているようで知らなかった情報共有ができました。
- これまでの議論をまとめた模造紙を広げ、委員全員で対話を重ねてきました。
- ビジョンごとに、現状や課題について検討。これまで書いた模造紙は30枚以上。
- 共育ビジョンが実現したらきっとこんないいニュースが生まれるだろうと「2030年下川みらいNEWS」をつくりました。ゴールイメージや個々の想いを共有し、具体的なアクションとして何が大事なのかを探りました。
- ビジョンのポスターが完成し、ぬりえコンテストを開催しました。
- これまでの会議の過程で様々なアクションのアイデアが生まれました。
- 最終回では、アクション案にシール投票をして、優先度を確認しあいます。今後の実際のアクションは地域学校協働本部にバトンタッチします。

地域共育ビジョン策定の様子

